

夏立つやほつれ短パン闊歩する
夏来たり全国ナンバー走り去る
サロベツ野牛遠近に夏は来ぬ
飛行雲一直線に夏来たる
今朝の夏使い始めし万歩計
洗い張り終えし母の手夏立ちぬ
生きてゐることのいろいろ今朝の夏

六月定例俳句会作品

幌延ほおずき俳句会

田熊佐三富富横
中谷藤浦榎榎山
徹千光宮堅とも貞
男子朗吉一子雄

気象台一口メモ

夏の大雨に備えて

8月に入り、夏休みの帰省やレジャーの計画を立てる方も多々と思います。

宗谷地方の夏は、本州よりも涼しく過ごしやすい印象ですが、前線が停滞する場合や台風が接近すると、宗谷地方でも大雨となることがあります。

昨年は7月下旬から9月上旬にかけて北海道に接近・上陸した台風のほか、前線等の影響により、道内各地で大雨・暴風による甚大な被害が多数発生したのは記憶に新しいところです。

このような状況が予想されるときは、気象台から大雨警報や土砂災害警戒情報などの防災気象情報を発表するほか、市町村から避難に関する情報が発令されます。

また、気象庁ではこれまでの土砂災害に加えて、今年の7月からホームページで浸水、洪水の危険度を表した分布図の提供を開始しています。

昨年の大雨を振り返り、日頃から避難する際の持ち出し品や避難場所までの経路を再確認するとともに、市町村からの情報や気象情報に注意することが重要です。

お問い合わせ先：稚内地方気象台 電話：0162-23-2679



地域おこし協力隊通信

vol.21

気温の上がらない日、雨や曇の日が続く、まるで梅雨のような日々を体験した今年の初夏でした。

ちょっと固い話を。持続可能性（じぞくかのうせい、英: sustainability サステイナビリティ）という言葉を目にするとおぼやかしく思います。環境学的には、生物学的なシステムがその多様性と生産性を期限なく継続できる能力のことを指し、一般的には、システムやプロセスが持続できることをいいます。まちおこしの催し物の視点で見ます。

屋外の催しでは、主催者にもお客さんにも天気が悩みの種です。一日・二日限定の催しでは、その効果・満足感はもちろん天気の影響を受けてしまいます。また、同じ日にいくつもの催しがある場合、お客さんにとっては「あれもこれも行きたいのに……！」ということになってしまいます。こういう状態を解決する方法のひとつとして、催しの開催期間を長くするということが考えられます。例えば、山菜採り、花やホテルの観賞などは一週間程度の期間であれば楽しむことができます。



フラワーボランティア、遠足の小学生たちによるケシの植栽

6月末にはトナカイ牧場の花壇整備ということで、フラワーボランティアの方々と、遠足で牧場を訪れた幌延小学校2年生による、ケシの苗を植える催しがありました。このような場合は、「植えておしまい」ではなく、日にちをおいて草取りをしたり、他の花を植えたりと、継続して花壇にあしを運んで花壇の変化を楽しむことができます。

このように継続的・持続的に行える、まちおこしの催し・仕組みを増やしていきたいと考えています。

地域おこし協力隊 丸田